

知識は 旅をする



館内のご案内（10）展示コーナー
※様々なテーマで資料を紹介しています。

千葉県立東部図書館だより
2016年3月

第55号

■トピックス

▼資料紹介コーナー

「防災・震災
～大切な命を守るために～」
現在展示中

▼図書館ナビのご案内

3月12日（土）、3月27日（日）
カウンター・電話にてお申し込みください。



▼利用者アンケートを実施しました

10月27日（火）～11月8日（日）の間、
来館された皆様に利用者アンケートをお願いしました。
お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

→〈結果を掲載しました〉

ホームページURL <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>
携帯電話サイトURL <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/m/>
携帯電話機のQRコードでアクセスできます→



「球技の誕生」

人はなぜスポーツをするのか

松井 良明／著

平凡社 2015 [78302/1]

オリンピックといえば体操や陸上競技、水泳などが思い浮かぶことでしょう。いやいや先日出場を決めたサッカーや、バレーボールなどの球技も欠かすことはできません。

フットボールってサッカーのこと？ラグビーのこと？ヒトがなぜスポーツをするようになったのか？本書ではオックスフォード英語辞典の用語や古い文献なども織り交ぜながらいくつかの伝統的な球技の歴史を紹介しています。

みなさんも、オリンピックを観戦する前に本書で球技の歴史を振り返ってみてはいかがでしょうか。



「東京オリンピック」

文学者の見た世紀の祭典

講談社／編

講談社 2014 [78069/38]

52年前の1964年(昭和39年)10月10日東京オリンピックが開幕し、たくさんの映像や記事がその感動を全国に伝えました。

なかには作家による記事もあり、報道記者とは一味違った視点で会場や選手を活写しています。井上靖の見た開会式、三島由紀夫の見たバレーボールなど文学的な記事を多数読めます。閉会後には、今で言うなら‘五輪ロス’のような心境も綴られており、当時の雰囲気味わうと同時に次の東京オリンピックではどんな文章が残されるのか思いを馳せるのも楽しいでしょう。



図書館ぶらり散歩 (40)

オリンピック パラリンピック

「余命1年からの奇跡」

逆境こそ、笑え。

野澤 英二／著

かんき出版 2010 [916/ノエ1]

1998年長野冬季パラリンピックのバイアスロン競技で銀メダルに輝いた野澤英二選手は、1979年に出勤途中の事故で下半身不随となりました。絶望のなかで生きる力となったのが車いすで競技をするマラソンとバスケットボールでした。

独自で考えた練習を積み重ね、やがて1988年ソウル夏季パラリンピックのマラソン候補になりますが、胃がんを発症して断念します。しかし、がんと共存して再びマラソンに挑戦し長野パラリンピックではスキーで移動しながら射撃を行うバイアスロンの選手として栄光を手に入れました。練習風景などの写真や妻の手記を交えて語る、逆境に立ち向かった男の物語です。



「箱根駅伝に賭けた夢」

「消えたオリンピック走者」金栗四三がおこした奇跡

佐山 和夫／著

講談社 2011 [7823/29]

1912年に行われたストックホルム・オリンピックは、日本人が初めて参加したオリンピックでした。そして、その選手が「日本のマラソン王」とも「箱根駅伝の父」とも呼ばれる金栗四三氏です。

当時の日本では40キロを超える距離を走ることなど、想像もされない時代でした。経験者がいないのですから、効率的な練習法さえわかりません。そんな中、出場した金栗氏は、折り返し地点からの帰り道、26.7キロ地点で突然姿を消してしまうのです。しかし、そこには現地の方々とのエピソードがありました。そしてこのオリンピックでの経験が、日本のマラソン競技の発展と、箱根駅伝誕生へとつながっているのです。

※ [] 内は資料の請求記号です。



『物忘れと認知症』

講師：旭中央病院 大塚 祐司 氏
東部図書館 3F 研修室にて

シニア世代の暮らしに関するさまざまな課題を解決するための情報を提供する講座です。平成 27 年 10 月 10 日(土)、旭中央病院神経精神科の大塚祐司 医師を講師にお迎えし、「物忘れと認知症」という演題でお話いただきました。物忘れの原因には、加齢や認知

症その他の病気があること、生活習慣病の予防が認知症の予防にもつながることなど、スライドショーを使いながら豊富な実例や体験談をまじえてのお話が大変わかりやすかったと、受講者の方々からも好評でした。質疑応答では、「地理が覚えられないが認知症と関係があるのか」「認知症が疑われる人にはどのように接すればよいのか」など、多数の質問が出されました。それぞれの質問に対し、丁寧かつ的確にお答えいただけたことで、皆様納得し、安心されていました。講座後のアンケートには「素人にもわかりやすく具体的に説明してくださり、とても良かった。」



「自分も年齢が上がり、認知症について知識を得たいと思っていたので大変参考になった。」などの声が多数寄せられました。また、「時々このように健康についての話が聞けるとよい。」など、引き続き今後の講座内容に期待するご意見もいただきました。ありがとうございました。



『人も発酵する町、発酵の里こうざき』

講師：神崎町役場まちづくり課 澤田 聡美 氏
東部図書館 3F 研修室にて



町おこしや地域を活性化するための、活動のヒントや参考となるような情報を提供する講座です。平成 28 年 1 月 30 日(土)、神崎町まちづくり課の澤田聡美氏を講師に、「人も発酵する町、発酵の里こうざき」という演題でお話いただきました。県内で最も小さな町である“神崎町(こうざきまち)”。静かでのどかな普段の様子から一変、県内外から 5 万人もの人々が訪れるようになった、熱気あふれる「酒蔵まつり」の様子とそこに至るまでの経緯を、写真パネルを用いて PR。それ以外にも、町の活性化のために取り組んできたさまざまな事例(JR 神崎駅のイルミネーション、ディナーショー、たまり場づくり等)を紹介してくださいました。



笑いをまじえつつ町づくりへの熱意が伝わるお話に、受講者の皆様も、「大変ユニークで面白い話に引き込まれた。」「何の仕事でも楽しくやっている姿に感銘。私も前向きに頑張ろうと思った。」「自身の仕事に対する姿勢を見直すきっかけになった。」など大いに刺激を受けられた様子でした。質疑応答では、神崎町で行っている農業や道の駅で扱っている発酵食品について等、数多く質問が出され、熱気あふれるひとときとなりました。ありがとうございました。

今後も様々な催しを

♪ 3/19(土)は 映画会、12(土)、27(日)は 図書館ナビも・

企画しています。どなたでも無料でご参加いただけます。ぜひ一度、お気軽にお申込み下さい。

ネコ館長のいる図書館



～匝瑳市立のさか図書館～

平成18年1月23日に八日市場市と野栄町が合併し、匝瑳市が誕生して今年で10周年になる。

のさか図書館は、平成21年11月25日に開館。隣接する旧農村環境改善センター（現生涯学習センター）にあった図書室を、旧野栄町役場だった匝瑳市野栄総合支所内に移転、リニューアルした。図書館のおよその



図書館入口

規模は広さ500㎡で、蔵書数は3万5千冊、その内児童書が1万5千冊となっており、幼児・児童、YA向けが充実している。

総合支所の玄関を入って左に曲がると図書館の入口になる。

図書館に入ると、すぐ左には本の紹介コーナー、正面にカウンターがある。さらに進むと、ネコの特集



明るい雰囲気の内

（これがこの図書館のこだわりなのだ）、実用書、児童書、一般書の順に書架が並んでいる。大活字本も豊富に揃っており、様々なニーズに対応している。

また、手前左は児童のためのコーナーで、子どもたちが本と出会い、触れ合う場を提供している。絵本だけでなく大型絵本、紙芝居

も手にとって楽しめる。利用者の多くは子供を連れてのお母さんとシニア世代であり、明るくゆったりした雰囲気は、くつろげる空間となっている。



児童コーナー

八日市場図書館とのさか図書館で借りた本は、どちらの図書館でも返却可能である。入口にはブックポストが設置されており、使いやすいよう配慮されている。

ところで、先ほどの、「この図書館のこだわり」の理由が面白いのである。館長がネコなのだ。ネコ館長がいる図書館は珍しいのではないかと思う。どんな館長なのかは、行ってみないとわからない。助手もいるようであるが、ネコ館長に会いたい方は、のさか図書館へ足を運んでみてはいかが。

◆所在地 匝瑳市今泉6474
(野栄総合支所1階)

◆電話 0479-80-6789

◆FAX 0479-80-6790

◆開館時間 午前9時～午後7時
(日曜・祝日：午前9時～午後5時)

◆休館日 月曜日(祝日の時は翌日火曜日も休館)
特別整理期間、年末年始

◆URL <https://www.library.sosa.chiba.jp/>

■ 県立図書館の資料は、市町村立図書館などを通じて利用することもできます。

お近くの図書館、あるいは公民館図書室等の読書施設にご相談ください。(一部ご利用いただけない施設もございます。各施設にご確認をお願いいたします。)

■ 県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。

グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

編集長の独り言

東日本大震災から5年が経ちました。東部図書館では、資料展示「防災・震災 大切な命を守るために」を行っております。短くもあり長いようでもあった5年間でしたが、今後も関連資料の収集に取り組み、記憶を風化させることの無いように、皆様への提供に努めてまいります。

編集・発行：千葉県立東部図書館

〒289-2521 千葉県旭市ハの349

TEL 0479-62-7070

FAX 0479-62-7466

URL : <http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>